

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100790		
法人名	社会福祉法人徳栄会		
事業所名	グループホーム共生		
所在地	宮崎県宮崎市清武町加納甲1317番地		
自己評価作成日	平成29年7月18日	評価結果市町村受理日	平成30年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4590100790-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方と共に生きるを基調に、ご入居者様が地域の中で安心して生活して頂けるよう交流も増やせるよう取り組んでおります。また、地域の方も安心して頂けるよう月1回の交流の中でつながりを強く持って、認知症の方の理解を深めていただいております。食事に関しては、3食手作りで対応しておりますので、その日の体調に応じ食事時間や形態等、臨機応変に対応する事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の主体性を重視しながら、家族、地域資源、医療、地域福祉、住民等との関りや活用を視点に入れた包括的支援を一步いっほ実践し、家族や地域住民の協力が増えてきているホームである。管理者の異動と数人の職員が入職して間もないが福祉の専門職であり、全職員で利用者を「気遣う心」「共に一緒にのケア」を念頭に置き、暮らしの中に根づかせ、自尊心と潜在力を引き出す支援に取り組んでいる。また、職員の資質とそれを習得するための研修やトレーニングを積み、利用者に寄り添い、その日の状態をキャッチし全職員で観察力を身につけ、話し合いの場を持ち意識づけを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様と共に生きるを基調に、安心と希望のある豊かな福祉文化の推進という理念の下、日々の業務に取り組んでおります。勉強会でも理念の共有が図れるよう努めています。	管理者・職員は、母体組織の理念を掲げ、理念の真意について深く考え、姿勢を問い直す指針としている。地域密着型サービスとして何が大切かを考え、独自に作り上げた理念には至っていない。	地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた理念の作成を、全職員で話し合い検討することが望まれる。利用者が地域の中で楽しく生活できることを根幹とした理念の作成を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、上加納公民館で、地域の皆様と運動や塗り絵をするなど、お互い顔馴染みになれるよう努めております。買い物時など地域の方からお声をかけて頂く事が増えて参りました。行事(祭り)にも参加して頂いております。	理学療法士の指導により、利用者と職員が参加して公民館で地域住民と月に1回、運動や塗り絵等をして交流している。このサロンに参加の地域の方から、ホームでボランティアをしたいとの相談事や買い物時に挨拶や会話ができる顔なじみが増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上加納公民館での運動教室時に、グループホームの説明や必要時は介護保険の質問にも答えられるようお話をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場でヒヤリハットや事故報告も行う事で、職員の考えだけでなく、地域の方やご家族の方の意見も取り入れ支援につなげることができました。	時宜にかなった課題を協議したり、ホームの現状を報告するなどの有効な情報交換の場となっている。職員にも内容を伝え、真意が伝わるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所等の提出書類はFAXや郵送ではなく、顔を覚えて頂ける様必ず手渡しを行って相談事等しております。又、運営推進会議にも毎回参加して頂いたり、包括支援センター主催の勉強会などにも参加し関係構築が出来るようにしております。	相談事や意見を聞きたい時は、いつでも出向き、積極的に関係性を持つように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の勉強会のテーマにも入れております。介護職が調べ発表する事でより理解度を深められるよう努めております。	身体拘束の弊害について学びを深め、身体拘束のないケアに全職員で取り組んでいる。抑圧感のない暮らしを支援し、日中は玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会だけでなく、面会に来られたご家族様からも環境や言葉遣い等おかしい所を聞かせていただき職員同士では気づききれない様な事でも早期に改善できる様努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で権利擁護を学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者と計画作成者が必ず2名で説明をさせていただいております。また後日、質問などある時に管理者不在でもお答えできるよう勉強会時を利用し、職員にも契約書や重要事項説明書の内容が理解できるよう説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただく以外に来所時に時間を設け、ご家族からのご意見やご要望をお聞きできるような努めております。	面会時等に遠慮なく話せるように意見や要望が出やすい環境づくりを心がけている。遠方の家族にも、ホーム便りや電話で報告し、相談事には迅速に対応して、家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内や職員会議時に案や意見を聴く機会を設け必要時は代表者に伝えるようにしております。	運営者、管理者は、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。利用者のその人らしさを実現するために記録を取り、思いを叶えるための職員の検討議案にもすぐに反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課とストレスチェックを行っており職員の能力に応じた評価を行い本人と話しながら得意分野を伸ばし、自信をつけていただき、やりがいにつなげていけるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を行い、その月の担当職員がテーマを決め、発表する事で理解を深められるよう努めています。外部研修で学びたい事がある時は管理者に伝えてもらうようにしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を行う事でネットワークづくりを行い支援につなげられるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前には必ず見学をしていただき不安な事や興味のある事をお聞きし、極力不安の軽減を図れるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前には必ず見学をしていただき不安な事やご要望をお聞きし、不安の軽減を図れるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時にご本人とご家族のご希望や不安等を把握し入所生活を送れるよう努めています。また担当職員からも分からない部分については随時ご家族様と連絡をこまめにとらせていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として生活の事(洗濯物の干し方等)と一緒にしながら教えていただいたり、同じ作業をしながら心配事等を話し、信頼関係構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や面会時には、時間をいただき最近の状態をお伝えし、ご本人とお話をさせていただいております。遠方の方には電話連絡を入れお話をさせていただく機会を作っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力をいただき、一緒に昔住んでいた家や好きなお店へ出掛けられるよう努めています。	全利用者が、家族に暑中見舞いや年賀状を出している。知人の訪問や自宅訪問、お泊り支援も行い、職員は、泊りに対する家族の心配にも答えながら、家族や民生委員の協力を得て、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人ずつお話を聞き、席順や座る位置を決めております。また、色々な方とお話が出来るよう午後の個別の時間は席順を変えたりし対応をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方にも行事の連絡をとらせていただいたり、その後の様子をお聞きし関係性を保てるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族やご本人から生活歴を聞き、ご希望を伺っております。買い物に行きたいご希望があるときは、可能な範囲で対応させていただきます。	利用者に寄り添い、思いを把握することで、その人らしさや希望をくみ取り、不安の解消につなげ、落ち着いた生活を実現するために本人本位に検討して、穏やかな生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族へ生活歴の聞き取りを行い食事のとり方や就寝時間等の把握した情報を参考にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや職員会議等で担当から送りがあり、全職員で把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の来所時にご要望をお聞きする時間をいただき把握に努めています。職員の気付きや提案についても反映できるよう努めています。	本人、家族の意向や職員のアイデアや要望、気づきを反映した介護計画を作成している。必要な関係者とモニタリングやカンファレンス等を行い、計画の随時および定期的な見直しに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員が前月の評価を行う事で見直しに活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズについてはどのように工夫したら実現出来るのかを考え、ご家族様との相談も含めすすめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や公民館での交流時に地域の情報の把握に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、ご本人とご家族の希望を優先しています。他科受診時のご希望に添うようご相談を対応しております。	利用者や家族が希望する医療機関で受診できるように支援している。協力機関の定期的な往診や7月より訪問看護も利用し、より適切な医療支援につながるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と常勤看護師を配置しており、介護職や入居者からの相談や処置に対しても24時間体制で出来るよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、看護師が面会や医療連携室と連携をとりながら関係性を築けるよう努めています。また、カンファレンスに参加させていただきよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期についてのご希望をお伺いしております。また、担当者会議の時にも再確認をさせていただいております。	重度化や終末期の対応については、利用開始時に本人や家族に指針を説明し、同意を得ている。状態変化に応じて随時家族と指針を確認し、職員も勉強会を開き、協力医療機関とも連携を密にして希望に沿える体制の確立ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している施設と年1回救急講習を行っております。またマニュアルを作成し目でも確認出来るよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯(想定)、日勤帯と避難訓練を実施しています。震災時等は、民生委員の方と連携出来るようになっていきます。	屋間に夜間を想定して避難訓練を実施している。災害に備えた食料や飲料水の備蓄はある。災害時には隣接する同法人施設に避難するように計画し、同法人施設の職員や、近くの民生委員の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方、声のトーンなど管理者以外でも、職員がお互いを指摘できるような関係作りを行っています。	大声での声掛けはしないということを心がけ、全職員で確認し合っている。日常の会話も笑顔で丁寧に落ち着いた言葉を使い、利用者をイライラさせたり、不安を抱かせないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	モーニングケア時など、決めきれないときは洋服を2着準備し、選んでいただくなど、選択肢を提供し、その中で選んでいただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは決まっていますが、入浴や活動など体調に応じて、時間をずらしたり、日にちをずらしたりして対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時、洋服は極力本人に選んでいただいております。散髪に関しては、月1回隣接する施設にて美容室の方に対応をいただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様お1人お1人の好みを把握し、毎食手づくりにて食事を提供しています。朝食に関しては、配膳やつぎ分けを手伝っていただいております。	利用者と職員は、会話をしながら食事介助をしている。毎食の食事を職員が作り、力量に応じて配膳の準備等を手伝う利用者もいる。庭で利用者と一緒に栽培した野菜を料理に加え、季節感を楽しむ工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室内1人ひとり咽喉状態や嗜好を把握し、可能な限り形態や量などに配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔ケアを実施し、食後も義歯等本人に洗っていただいた後、職員が再介助にて対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表への記載毎月の評価や、日々の情報交換を行いながら、排泄パターンを把握し、極力トイレでの排泄をしていただけよう努めております。	排せつチェック表を活用して、トイレでの自立に向けた支援を行っている。利用者の排せつパターンを把握した職員と利用者の会話が、排せつ時の雰囲気を和らげ安心できる排せつにつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	副菜やお汁の中に、極力野菜を多めに使用しております。朝食には、必ず乳製品を使用しております。それでも便秘になられる方に関しては、医師に相談の上、緩下剤にて支援を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は固定しておりますが、お1人週3回予定しておりますので、体調不良時や外出時などは、曜日を変更し対応しております。個浴になっているので、ごゆっくり入浴することが可能です。	浴室前の脱衣室は、アニメの壁紙が安心感を誘い、会話も弾み入浴を楽しめる場所となるよう工夫している。本人の希望に合わせて、いつでも入浴できる体制を整え、利用者がくつろいで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	歩行希望時や体調不良時などは、お部屋でゆっくりしていただけるよう支援をしております。寂しくて1人になりたくない方に関しては、落ち着くまで職員が傾聴し、安心して休んでいただけるよう、努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は、個人ファイルにつけており全職員が把握できるようにしています。服薬介助時は2名の職員で日付名前等を確認し支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの生活歴や嗜好趣味を把握し、その方に応じた個別での活動を楽しんでいただけるように支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歯磨き粉やおやつなど、ご希望があれば職員と一緒に近所のお店にて対応しております。ドライブ時は、民生委員の方の協力もお願いしております。地域の祭り時は、ご家族にもご協力を依頼し出掛けるようにしております。	天候と利用者の状態を見ながら近隣へ散歩等の外出をしている。今後はさらに、風通しの良いホームにし、各行事、夏祭り、敬老会へ地域住民の参加を募り、家族や地域の方の協力を得て、利用者の希望に沿った外出の機会を確保する意向がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	歯磨き粉やハンカチ、食べたいおやつ等のご希望があれば職員と近くのお店に行っております。財布はレジの時に渡しし支払をして頂いております。金銭に関しては、金庫にて保管させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時に、対応させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天井が高く開放的な空間作りを行っています。廊下には、皆様が作成した貼り絵や作品を飾っています。	共用生活空間は、居心地よく過ごせるように適切な湿度や温度の調整が行われている。利用者がくつろいで過ごせるように音響、職員の声の高さに等に配慮して、畳の部屋やテレビの前のソファで利用者がゆっくり過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファがあり、テレビを観ながらの会話や活動時に集合し楽しんで頂けるようにしております。また、テーブル席でも、個別での活動や会話を楽しんでいただけるように配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、馴染みの物も持ってきていただけるように説明を行っています。持参されたものは居室に飾っていただいております。	安全や清潔が保たれるように支援し、利用者の個性を生かした部屋づくりを家族や本人と相談して支援している。使い慣れた家具、テレビ、衣類などが持ち込まれ安心して生活できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーになっています。トイレや廊下は自動で電気がつくようになっています。トイレの水は、自動から手動に替え、現在自分で流していただいております。		